



小児用肺炎球菌ワクチン（プレベナー）についての説明

静岡県立こども病院 予防接種センター

1) 肺炎球菌感染症

肺炎球菌は、文字通り肺炎の原因菌として重要ですが、そのほか、気管支炎や中耳炎、副鼻腔炎の原因になります。小児で特に重視されるのは、敗血症や髄膜炎など、非常に重い感染症を引き起こすからです。近年、抗菌薬が効きにくい薬剤耐性菌が増えています。

2) ワクチンの効果

小児用肺炎球菌ワクチンは、生後2か月以上5歳未満のお子さんに接種することができるワクチンです。このワクチンの接種によって、肺炎球菌による重い感染症(細菌性髄膜炎、菌血症など)を予防することができます。

3) ワクチンの特徴

不活化ワクチンの一種です。免疫効果を高めるため、肺炎球菌から精製した免疫成分を無毒化したジフテリア毒素に結合させています。結合型肺炎球菌ワクチンとも呼ばれます。13種類の肺炎球菌の免疫成分を含んでいます。

4) 接種方法

- ① 初回免疫を2か月以上7か月未満で接種開始。27日間以上の間隔で0.5mlを3回接種。初回免疫から60日以上の間隔をあげ、12か月以降に追加免疫として0.5mlを1回接種。合計の接種回数は4回です。
- ② 初回免疫を7か月以上12か月未満で接種開始した場合は、27日間以上の間隔で0.5mlを2回接種。初回免疫から60日以上の間隔をあげ、12か月齢を過ぎてから追加免疫として0.5mlを1回接種。合計の接種回数は3回です。
- ③ 接種開始が12か月以上24か月未満の場合は60日間以上の間隔で0.5mlを2回接種。
- ④ 24か月以上5歳未満で接種を開始する場合は、0.5mlを1回のみ接種。

5) 副反応

注射部位の症状(赤み、硬結、腫れ、痛みなど)が70%程度にみられ、発熱(37.5℃以上)が30%程度の子どもにみられます。非常にまれですが、ショックやアナフィラキシー様反応、けいれんなどがみられることもあります。

6) ワクチン接種後の注意

- ① 接種後30分間は、院内にとどまり、様子を観察してください。接種部位の腫脹、体の発疹、じんましん、気分不良、嘔吐、咳や呼吸困難などの症状が見られたら、直ちに接種した医師か看護師に声をかけて下さい。この間に異常が見られなければ、看護師にその旨、一声かけて帰宅して下さい。
- ② 接種部位は清潔に保ちましょう。入浴は問題ありませんが、接種部位をこすりはやめましょう。
- ③ 接種当日は激しい運動はさけてください。その他はいつも通りの生活で結構です。